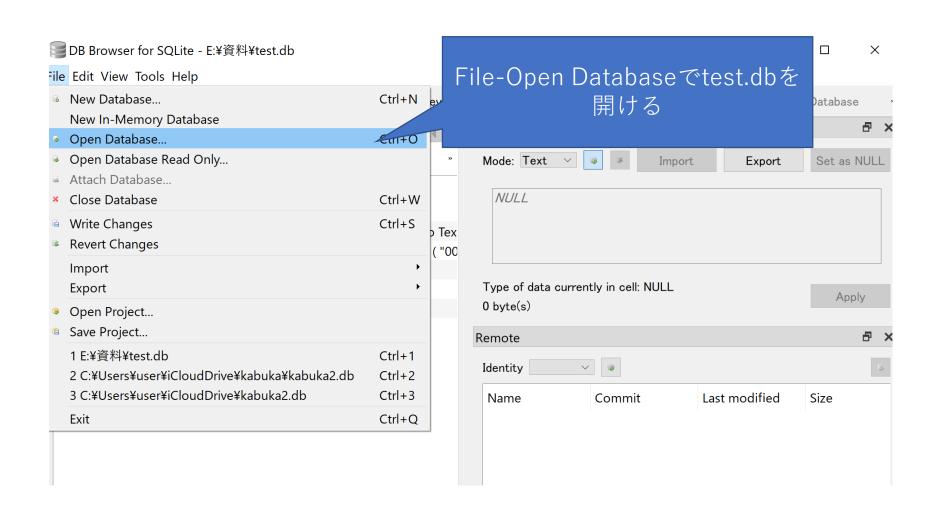
SQL

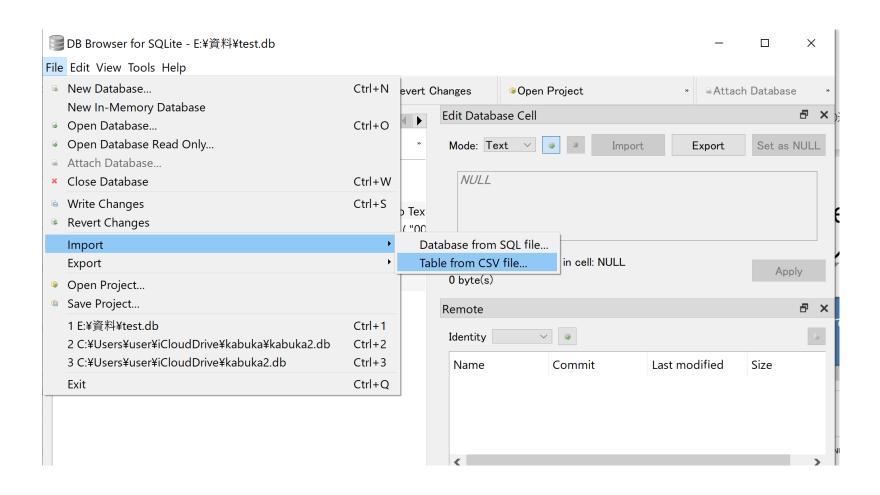
### DB browser for SQLlite

• DB browser for SQLliteをインストールする

# import文を使う(DB Browser for )Lite) giants.csvをgiantsのテーブルに追加する



### File-Impoer-Table from CSV



### gplayer.csvを選択する

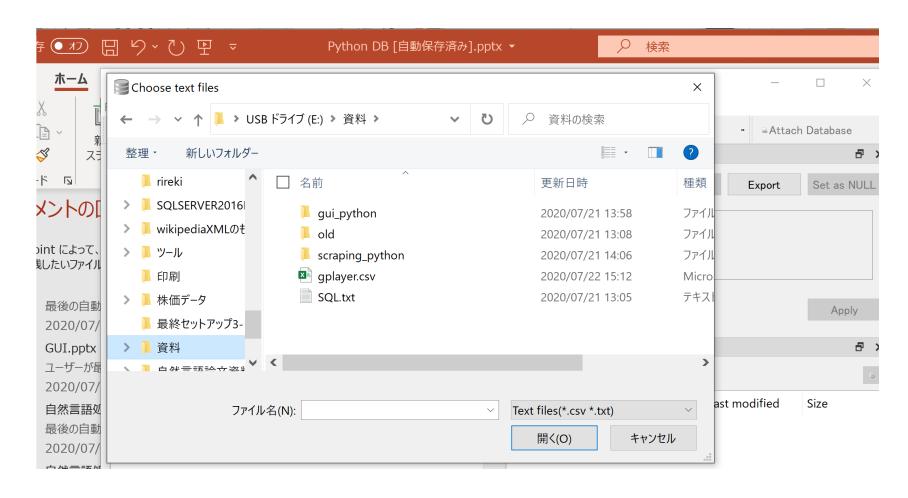
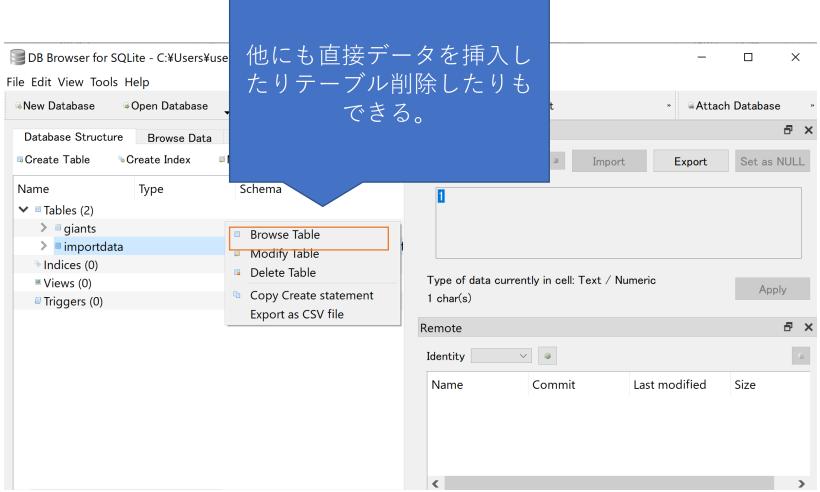


Table Name入力とColumn names in fist lineのCheckを外 す



Table name	importdata	
Column names in first li	ne 🗌	
Field separator	,	
Quote character	<b>"</b> ~	
Encoding	UTF-8 ∨	
Trim fields?	$\checkmark$	
	<sup>∞</sup> Advanced	
field1	field2	field:
1 5	XXXX	175
<		>
	OK	Cancel

データを見る



### select

DB browser for SQLliteで giants.dbでデータベースを開ける



# テーブルスキーマ (テーブル名giants)

```
CREATE TABLE "giants" (
    "選手名" TEXT,
    "守備" TEXT,
    "生年月日" TEXT,
    "身長"
           INTEGER,
    "体重" INTEGER
```

### データの検索(select)

セミコロンを入れる

select フィールド名, ✓

• • •

フィールド名

from テーブル名

whereフィールド名=検索値

※フィールド値のテキスト型はシングルクォートで囲む

#### select文の\*

```
select * from テーブル名ですべてのフィールド
のデータを表示する
select フィールド,フィールド・・・・ from テーブル名で表示
したいフィールド名を表示する
```

#### 例

select \* from giants

=

select 選手名,守備,生年月日,身長,体重 from giants

アスタリスクはすべてのフィールドを表す。

### 検索

where フィールド=値
 文字列の場合はシングルクオートで囲む
 不等号も使える

例

select \* from giants where 守備='内野手' select \* from giants where 身長>=170 など

#### 論理演算子 and or

体重が75より大きいでかつ身長が170より大きい例

select \* from giants where 体重>75 and 身長>170

#### 比較演算子

```
a = b aとbは等しい

a <> b aとbは等しくない

a > b aはbより大きい

a >= b aはb以上

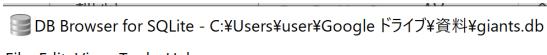
a < b aはbより小さい

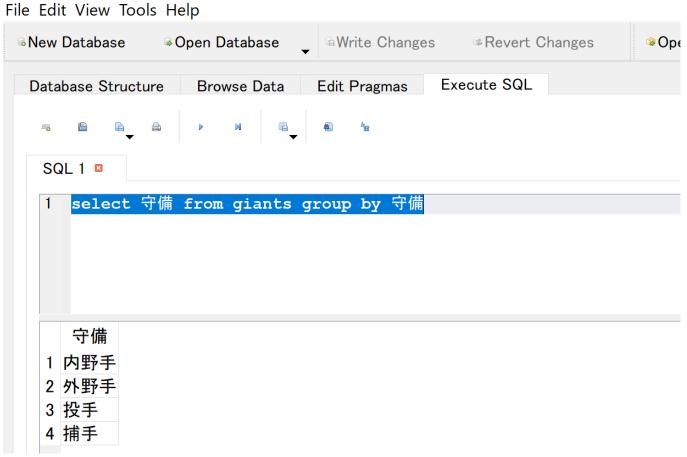
a <= b aはb以下

aはカラムbは数値
```

### 重複のないデータを抜き出す

select フィールド from テーブル group byフィールド 例 select 守備 from giants group by 守備





### 並び替え order by

- •昇順の場合は asc、降順の場合は desc(指定しない場合に)
- 例
- select \* from giants order by 身長 asc;
- select \* from giants order by 身長 desc;

### あいまい検索 like

• select \* from giants where 選手名 like '坂%'; %は任意の文字

### 平均,合計,最大

- select avg(体重) from giants;
- select sum(体重) from giants;
- select max(体重) from giants;

### count関数

データの個数を求めるときに使う テーブルgiantsの数を求めるとき select count(\*) from giantsで求まる。 さらに

SELECT COUNT(DISTINCT 守備) from giants で重複のないデータの数が出てくる distinctは重複がないデータをとる

#### 演習

SELECT 守備, COUNT(守備) FROM giants group by 守備 はどのような結果になるか考察してください。

### 演習(select)

01. 以下のデータベース/テーブルを作成せよ。 データベース名: test\_database

テーブル名:test\_usertable

UserId	UserName	UserAge
1	鈴木	21
2	佐藤	25
3	田中	18
4	山田	24
6	戦場ヶ原	17

### 演習

- 02.田中さんの歳を19歳に変更せよ。
- 03.戦場ヶ原さんを削除せよ。
- 04. 生年月日のカラム(カラム名:Birth)を追加せよ。

カラム (フィールドの追加)は以下のようにします。

alter table test\_usertable add birthday date;

(削除:alter table test\_usertable drop birthday;)

05. 以下のようにbirthdayカラムを作成し生年月日を追加せよ。

鈴木:1992-12-2

佐藤:1988-3-9

田中:1995-4-27

山田:1989-9-29

06. 歳が若い順に、名前を表示せよ。

07. レコードの数を数えよ。

08. 登録してあるユーザの歳の平均を表示せよ。

09. ユーザ名が"山"で始まるレコードを表示せよ。

# 内部結合

### 表の重複をなくす

• 表 employee

繰り返しがあり データの重複があ り保守も大変

id	Name	department
1	松下	総務
2	田中	総務
3	高橋	営業
4	吉原	総務

# 正規化 (このようなデータベースをRDB)

id	Name	department	
1	松下	総務	
2	田中	総務	
3	高橋	営業	■営業を1総務を3とする
4	吉原	総務	



テーブルを分割する→正規化

department\_idでつな げる

emp	oloyee		department	
id	Name	department_id	department_i	department
1	松下	3	d	
2	田中	3	1	営業
3	高橋	1	2	開発
4	吉原	3	3	総務
			4	秘書

### 内部結合SQLの書き方

SELECT カラム名1, カラム名2, ...
FROM テーブル名 1 INNER JOIN テーブル名2 ON 結合の条件
(重複するカラム名があるのでテーブル名.カラム名で表現する)

#### 内部結合の例

```
select * from employee inner join department on employee.department_id = department.department_id (すべてでなくテーブル名.カラムで個別で表すことができる) ※すべてのフィールドではなくemployee.Nameで名前だけ表示)
```

#### 課題

- 以下のテーブルを正規化して内部結合してテーブル を表示せよ
- テーブル名 成績表

学生番号	名前	科目名	成績
0001	田中	国語	80
0002	佐藤	数学	90
0003	馬場	国語	65

# SQL(データ部)

```
create table
科目表(科目番号,
科目);
create table
成績表(学生番号,
名前,
科目番号,
成績);
insert into 科目表(科目番号,科目) values('001','国語');
insert into 科目表(科目番号,科目) values('002','数学');
insert into 科目表(科目番号,科目) values('003','理科');
insert into 成績表(学生番号,名前,科目番号,成績) values('001','田中','001',80);
insert into 成績表(学生番号,名前,科目番号,成績) values('002','佐藤','002',90);
insert into 成績表(学生番号,名前,科目番号,成績) values('003','馬場','001',65);
```

学生番号	名前	科目名	成績
0001	田中	国語	80
0002	佐藤	数学	90
0003	馬場	国語	65



	•		
学生番号	名前	科目番号	成績
0001	田中	001	80
0002	佐藤	002	90
0003	馬場	001	65

科目番号	科目
001	国語
002	数学
003	理科

#### 外部結合

学生番	名前	科目番号	成績
号			
001	田中	001	80
002	佐藤	002	90
003	馬場	001	65
004	松下	004	70

科目番号	科目
001	国語
002	数学
003	理科

対応する科目番号004がない 内部結合だと学生番号004は表示されない inner join をleft outer joinにすると学生番号004は 表示される。これを外部結合という

## 外部結合(左を残すleft outer join)

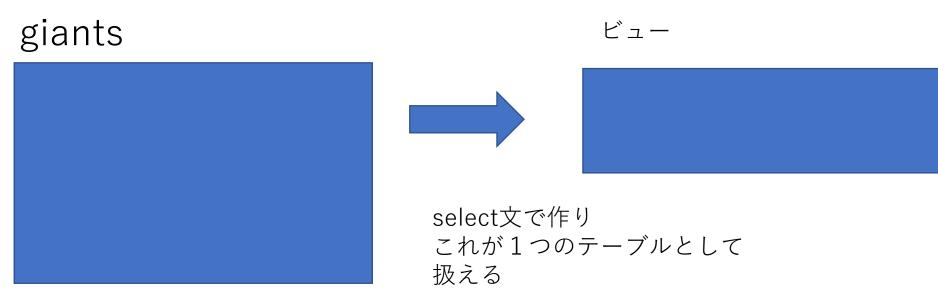
select \* from 成績表 inner join 科目表 on 成績表.科目番号=科目表.科目番号;



select \* from 成績表 left outer join 科目表 on 成績表.科目番号= 科目表.科目番号;

### ビュー

- 仮想の表 (テーブル)
- 例えば180cm以上の身長の選手名をテーブルとして 作成したい場合



### ビューの作り方

構文

create view ビュー名 as select文

### 例

問題 身長180 c m以上の選手のビューを作ってください create view player\_hight180 as select \* from giants where 身長>=180

select \* from player\_hight180で見れる

ここで重要なのはplayer\_hight180が実際にテーブルがないということを確かめてください

# 確認

■ New Database    ■ Open Database    ■	Write Changes	Revert Changes	⊚Open Project	<sup>⊚</sup> Save Project	■ Attac
Database Structure Browse Data Edit Pragmas Execute SQL					
□ Create Table □ Create Index □ Print					
Name	Туре	Schema			
➤ ■ Tables (4)					
> 🗉 department		CREATE TABLE department ( department_id, department )			
> @ employee	CREATE TABLE employee ( id, name, department_id )				
giants		CREATE TABLE "giants" ( "選手名" TEXT, "守備" TEXT, "生年月日" TEXT,			
> sqlite_sequence	ce CREATE TABLE sqlite_sequence(name,seq)				
▼ ■ Views (1)					
> = player_hight180		CREATE VIEW player	_hight180 as select	* from giants where :	身長>=1
■ Triggers (0)					

### インデックス

- ・高速に検索するためにテーブルのカラムに インデックスを付与する→高速に検索できる (データ数百万件などでは発揮する)
- →重複のないカラムに威力を発揮する (性別など種類が少ない場合は負荷になる)
- ★ビックデータになればなるほどインデックスは 重要になります。データベースのチューニングの基本です

### インデックス

**CREATE INDEX** インデックス名 **ON** テーブル名 (カラム名1, カラム名2, ...);

create index index\_giants on giants(選手名);

### indicesで確かめる

### index実習

Wikipedia.dbを開けます

select \* from Wikipedia where titile='サンセール'を検索します (時間が少しかかります)

Wikipedia.dbからテーブルwikipediaのフィールドtitileにインデックスを振ります

create index title\_idx on wikipedia(title);

再びselect \* from Wikipedia where titile='サンセール'を検索します。速く感じられるはずです

### 副問い合わせ

```
insert into テーブル名(フィールド・・・) values (フィールド・・・) \downarrow insert into テーブル名(フィールド・・・) select フィールド・・・ fromテーブル名
```

selectで表示されるデータ がテーブルに追加される(ただし、フィールドは完全に合わせる)

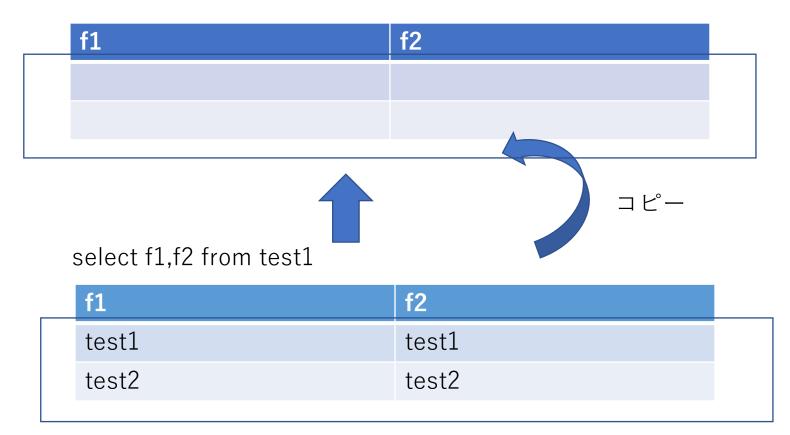
## 副問い合わせ例

```
create test1(f1 text,f2 text);
insert into test1(f1,f2)values('testdata1,'testdata1');
insert into test1(f1,f2)values('testdata,2'testdata2');
create test2(f1,f2);
```

insert into test2(f1,f2) select f1,f2 from test1;

# insert into test2(f1,f2) select f1,f2 from test1

insert into test2(f1,f2)



### 演習

・テーブルgiantsから身長180cm以上 体重80kg以上の選手を新たにテーブルを作成して 副問い合わせを利用してデータを入れて ください。スキーマは各自任せます。

# 解答例

# データ削除(delete文)

• delete from テーブル名 where フィールド=値; 例

insert into giants(選手名) values('Test')

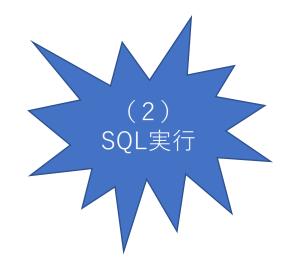
でデータを入れて確かめてください

select \* from giants where 選手名='Test'で確かめてdelete 文を実行する

もし where文を書かず delete from giantsを実行すればすべてのデータが消える。

### トリガー

テーブル(トリガー設定)



(1)テーブルにinsert delet upate後または前にSQLが実行できる 後の方は履歴テーブルを使うときによく使われる

## トリガー構文

```
CREATE TRIGGER トリガー名
INSERT ON テーブル名
BEGIN
SQL文1;
SQL文2;
END;
```

### トリガー確認および削除

### 作成したトリガーの確認

SELECT \* FROM sqlite\_master WHERE type = 'trigger';

### トリガーの削除

DROP trigger my\_trigger;

具体例

フーフルにア クションが あっった

テーブル(トリガー設定)



(2)トリガーが 引かれる

(1)テーブルを追加した後

この処理はトリガー で書かれているので コーディングしなく てもいい

履歴テーブル



(3)履歴を残す

トリガー

#### 例 以下 試してみる

```
create table product(id integer, name text, price integer);
create table log(id integer primary key, act text);
create trigger itrigger insert on product
begin
insert into log(act) values('INSERT Action');
end;
create trigger dtrigger delete on product
begin
insert into log(act) values('DELETE Action');
end;
create trigger utrigger update on product
begin
insert into log(act) values('UPDATE Action');
end;
insert into product(id, name, price) values(12, 'test', 12);
```

## データ更新

• Update テーブル名 set フィールド=値, フィールド=値, ・・・ フィールド=値 whereフィールド=値

### 例

・ 笠井 駿 | 180 | 80の選手名を空白をなくした笠井駿にしてみる。

### SQL

Update giants set 選手名='笠井駿' where選手名='笠井 駿'; (※もし、where文がない場合どうなるか? 確かめてみてください) Pythonによるデータベース操作

# データ参照(selectdb.py)

```
import sqlite3
dbname='test.db'
conn=sqlite3.connect(dbname)
c = conn.cursor()
select sql = "select No,name,hight,weight from giants
for row in c.execute(select sql):
 print(row)
conn.close()
```

### 解說

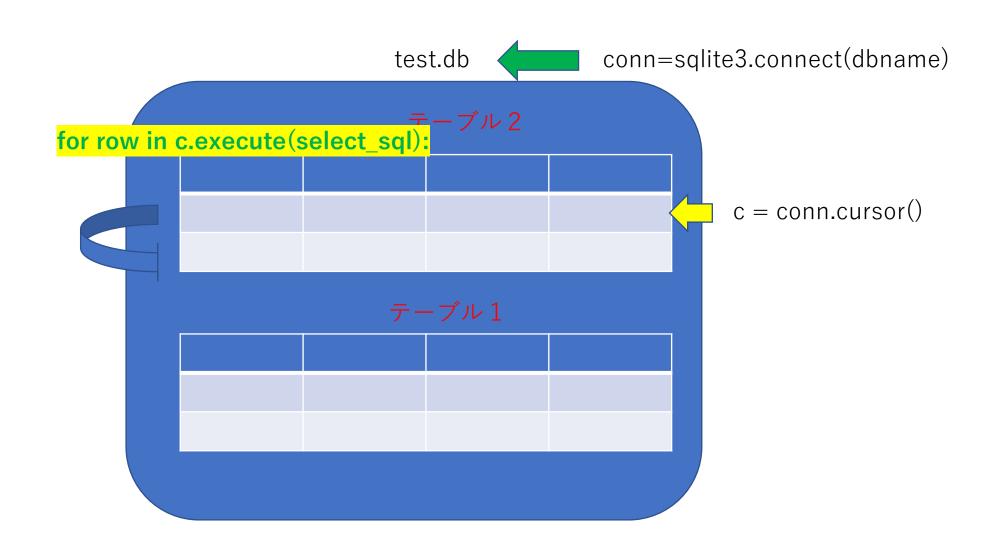
import sqlite3←sqliteにアクセスできるライブラリをインポート dbname='test.db'←データベースの名前(この場合はプログラムと同じ位 置にあるとしている)

conn=sqlite3.connect(dbname)←データベースに接続

```
c = conn.cursor()←カーソルの設定
select_sql = "select No,name,hight,weight from giants "←
実行する SQLを書く
for row in c.execute(select_sql):←カーソルを実行(ルー
プ)
print(row)←カーソルの位置のデータを出力
```

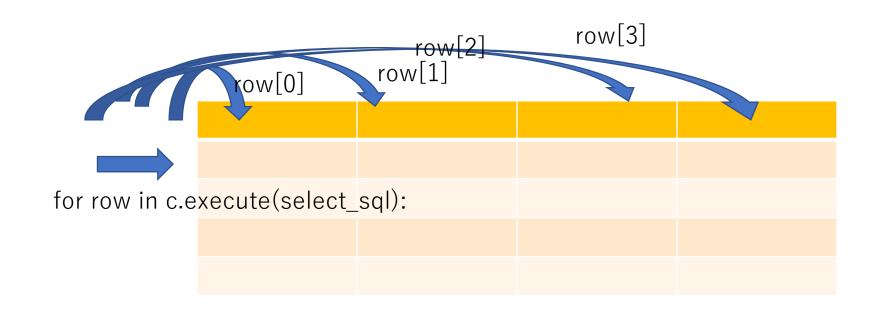
conn.close()←接続を切断

### 図でまとめる



# データ追加(insertdb.py)

```
import sqlite3
dbname='test.db'
conn=sqlite3.connect(dbname)
c = conn.cursor()
N_0 = '5'
name='Tset Name'
hight=170
weight=80
sql = 'INSERT INTO giants(No,name,hight,weight) VALUES(?,?,?,?)'
data = (No,name,hight,weight)
c.execute(sql, data)
conn.commit()
conn.close()
```

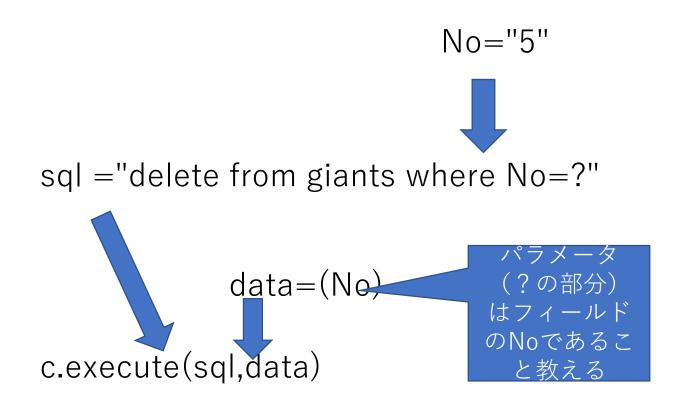


# データの削除(deleted.py)

```
import sqlite3
dbname='test.db'
conn=sqlite3.connect(dbname)
c = conn.cursor()
No="5"
sql ="delete from giants where No=?"
data=(No)
c.execute(sql,data)
conn.commit()
conn.close()
```

# データの削除(deleted2.py)

```
import sqlite3
dbname='test.db'
conn=sqlite3.connect(dbname)
c = conn.cursor()
sql ="delete from giants where No='4'"
c.execute(sql)
conn.commit()
conn.close()
```



## pythonからCSVへのアクセス

```
import csv
with ('sample.csv') as f:
reader = csv.reader(f)
header = next(reader) # ヘッダーを読み飛ばしたい時
for row in reader:
    print(row)
```

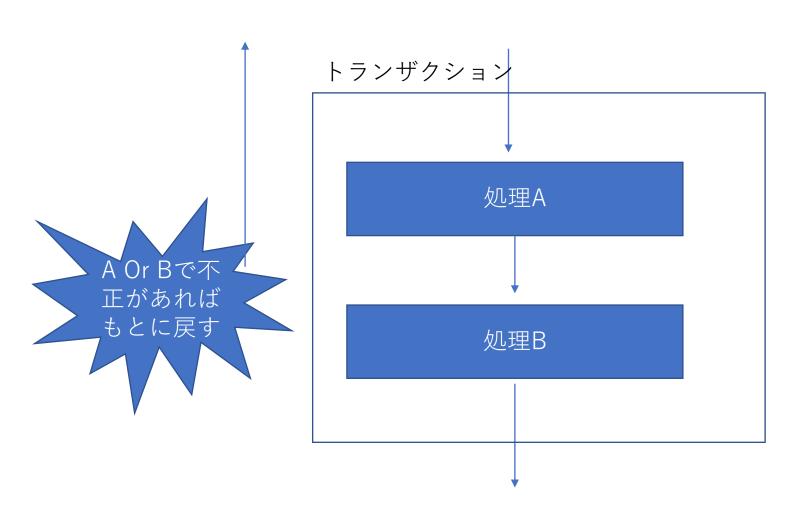
### 演習

• wikipediaのデータをテーブルに入れるようにしてください。

## トランザクション処理

- (1)Aさんの口座から5,000円分差し引き、残高10,000 5,000 = 5,000円にする。
- (2) Bさんの口座へ5,000円分プラスし、残高20,000 + 5,000 = 25,000 円にする。
- もし(1)の処理ができなくなれば
- Bさんの口座にお金だけ増える。Aさんは何もせずBさんにお金を振り込める。

# トランザクション処理(ALL or Nothing)



### コード例A

```
import sqlite3
dbname='giants.db'
try:
  conn = sqlite3.connect(dbname)
  for i in range(5):
     print(i)
     conn.execute("insert into giants(選手名) values ('テスト')")
except sqlite3. Error as e:
  print(e)
  if conn: conn.rollback()
  print("rollback run")
finally:
  if conn: conn.commit()
```

### コード例B

```
import sqlite3
dbname='giants.db'
try:
                                               わざとエラーのSQLを作る
  conn = sqlite3.connect(dbname)
  for i in range(5):
    print(i)
    if i==2:
       conn.execute("xxxinsert into giants(選手名) values ('テスト')")
    else:
       conn.execute("insert into giants(選手名) values ('テスト')")
except sqlite3. Error as e:
  print(e)
  if conn: conn.rollback()
  print("rollback run")
finally:
  if conn: conn.commit()
```